

みんじ

播磨町民生委員児童委員協議会

マークの意味

マークの図柄は昭和35年(1960)に公募して選ばれたものです。幸せのめばえを示す四つ葉のクローバーをバックに、民生委員の「み」の文字と児童委員を示す双葉を組み合わせ、平和のシンボルの鳩を型取って、愛情と奉仕を表しています。

30号
(2018. 8. 1)

『聖の青春』福祉映画のつどい チャリティティーバザー開催



6月30日(土)播磨町中央公民館で、福祉映画会が催されました。上映前に播磨西小学校合唱団の元気な歌声を聴きました。その後、ゆうかり作業所施設長津田孝代さんの『生命の尊さは地域から』の講演があり、食べ物から生命を大切にしようということ、作業所では厳選された原料を使い、添加物・防腐剤が入っていないパンやフッキーを作っています。また、喫茶店を開き地域の人のつながりを図っています。

映画は、幼少期より難病を患い、入院を繰り返した主人公(村山聖)。入院中父が何気なく勧めた将棋に心を奪われ、羽生善治らの天才棋士たちと命を削りながら将棋を指し、病と闘い、全力で駆け抜けた感動の作品でした。同時に、民児協木曜会の作品と、ゆうあいの園の収穫した野菜や日用品が出品され、今回はゆうかり作業所の出品もあり、賑やかなバザー会場になりました。



バザーや募金には多くのご協力を頂きありがとうございました。



民生委員制度は、平成29年に創設一〇〇周年を迎えました。岡山県で制度設置された日にちなんで、5月12日を「民生委員・児童委員の日」として、この日から一週間に全国でいろいろな活動が行われました。播磨町でも、中央公民館で「集い」を開きました。町内の大正琴グループ「レインボー」のアンサンブルに心が和み、播磨中・播磨南中学校の吹奏楽の演奏と合唱には、若いパワーをいただき会場は温かい空気に満ちたりました。

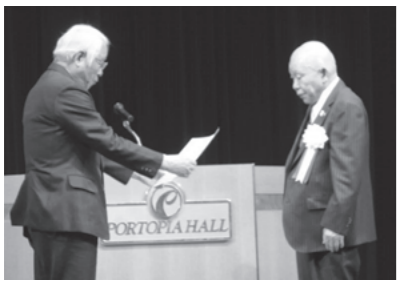
『民生委員・児童委員の日』の集い 5月12日は民生委員・児童委員の日

私たち民生委員・児童委員は 関係機関へつながります

- ・困りごとの相談相手として
 - ・福祉サービスを受けるお手伝い
 - ・子どもたちの安全を守る
- などの活動をしています。どうぞ、ご相談ください。

亀田会長 永年の功績に 兵庫県知事から表彰

神戸市のポートピアホテルにて行われた一〇〇周年記念大会で、永年播磨町民生・児童委員会の会長を務めた功績で、兵庫県知事から表彰されました。



心のおもむくままに

終活が話題になっていますが、このほどA Iで寿命計測のアプリを開発したとのニュースを伝えていました。

自分の寿命を知りたいと思いませんか。知りたいと思う人は、その理由として、寿命が推定されれば予定を計画することができるとをあげています。知りたくないという人は、生きていく間の生活費が心配だとの意見でした。私は、知りたくないという方ですが、さて、みなさんはどちらですか？

ごぞんじですか？

☆ヘルプマーク・ヘルプカード

内部障がいや難病の方、妊娠初期の方など、外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりにくい方が利用できます。

思いやりのある行動を

ヘルプマークやヘルプカードを持っている人は支援が必要な方です。見かけたら思いやりのある行動をお願いします。

◎問い合わせは
・播磨町自立支援協議会
Tel 079-436-3456
・播磨町役場福祉グループ
Tel 079-435-2361

編集後記

「みんじ」発行委員として第4号目の発行です。私たちがどのような活動をしているのかを、ご理解とご協力をいただき、一人でも多くの方に読んでいただける紙面になるようがんばっています。

第三回 風薫るフェスタ 福祉フェア 昔の遊び



こままわし

大中遺跡公園で「風薫るフェスタ」が開催されました。私たち民生児童委員、主任児童委員も社会福祉協議会の「福祉フェア」の一つとして、「昔の遊びコーナー」を計画・実施しました。今年は一月中さわやかな好天に恵まれ、どのコーナーにもたくさんの方に参加していただきました。大いに盛り上がり楽しいひと時でした。



風車作り



大縄跳び



魚つり

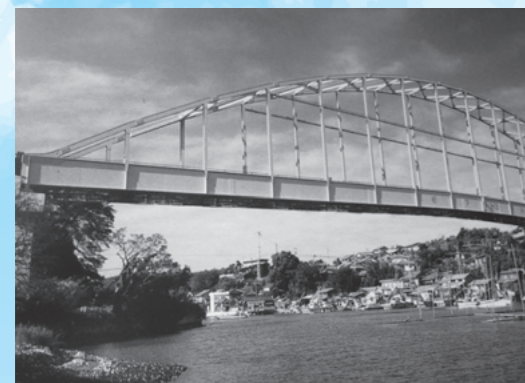


竹馬



啓発運動

長島愛生園を訪ねて



長島大橋



長島愛生園歴史館



歴史館の中で



納骨堂

岡山県の瀬戸内海に浮かぶ東西6キロの細長い島、長島。この島にある国立療養所長島愛生園は、一九三〇(昭和5)年日本初の国立療養所として開園しました。本土からの橋、邑久長島大橋が架かったのは、一九八八(昭和63)年のこと。それまでは船でしか行く手段がなかった隔離の島だったので、この橋は人間回復の橋ともいわれています。ハンセン病はかつてライ病と呼ばれ不治の病、遺伝病だと信じられていました。顔や手足など目立つ所に後遺症

があるため、偏見と差別の対象になってきました。現在は特効薬があり、ハンセン病は完治する病になり、ここ長島愛生園でも今はハンセン病患者はいません。現在入所されている一九一人の方達は、病は完治しているにもかかわらず、高齢化や後遺症などにより社会復帰が困難だった方々です。つらい過去を送ってこられました方が、現在は各自が趣味や生きがいを見つけ、日々を穏やかに前向きに過ごしていらっしゃるそうです。私たちに話を聞かせてくださった

90歳の語り部の男性も淡々と穏やかな口調で貴重な体験を話してくださいました。ただ、ひとつ気になるのは、入所者が亡くなっても家族が周囲の目を気にして、遺骨の引き取りが進まなかったため、三〇〇人以上の人達がこの島にある納骨堂に眠っているということです。一日も早く社会から差別や偏見がなくなっていくことを願います。